

「コミュニティをデザインする」

日時：2018年5月11日（金）15:00～16:30

場所：同志社大学 今出川校地 寒梅館3階 プレゼンテーションホール

<http://www.doshisha.ac.jp/information/campus/access/muromachi.html>

講師：下原 勝憲 氏（同志社大学理工学部 情報システムデザイン学科 教授）

塩津 ゆりか 氏（愛知大学経済学部 准教授）

木村 公哉 氏（同志社大学大学院理工学研究科 博士後期課程在籍）

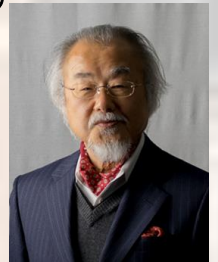
コミュニティとは、住民同士（ヒト）が地域の施設など物理的な空間資源（モノ）と目に見えない制度や規則・地域の祭りなどイベント（コト）と共存しながら日常生活・社会・経済活動を営む場です。人々が日常的に生み出すヒト・モノ・コトとの関わりは、将来的に地域社会に便益をもたらすことが期待できる社会的・経済的価値の源泉であり、誰もが大事だと思い、その価値を信じ、自ら関わりを求めることにより資産として機能し、トラストとなると考えます。

私たちは、コミュニティの活性化に向けて、コミュニティにおけるヒト・モノ・コト相互間の関係性に着目したフィールドワークを展開しています。具体的には、ヒト・モノ・コトの関係性データを収集・編集・表現するためのプラットフォームを構築して、①住民が日常生活を営むなかで自然に生み出すヒト・モノ・コトとの関わりを一人ひとりが獲得する関係資産として定量化・可視化し、関わりへの気づきを喚起する仕組み、②関係資産を住民自らが増やすべく関わりそのものに投資することを通じて関係資産を維持・運用する持続的な仕組み、さらには③地域公共財の自発的供給に着目し、地域コミュニティ課題の可視化を通じた協調行動の誘発の仕組みの構築を目指しています。本講演では、それらの仕組みづくりに向けた研究概要とともにフィールドでの実証実験結果を紹介し、今後の研究展開の方向性等について議論したいと考えます。

1. 「システムとしてのコミュニティ・デザイン」 下原 勝憲 氏（同志社大学理工学部）

コミュニティをヒト・モノ・コトの関係性から成るシステムと捉えた関係性デザインの考え方について紹介します。

同志社大学理工学部 情報システムデザイン学科 教授。NTTコミュニケーション科学基礎研究所 研究部長、ATR人間情報科学研究所長・ネットワーク情報学研究所長等を経て、2006年より同志社大学工学部 情報システムデザイン学科 教授。2008年より現職。博士（工学、九州大学）。関係性のデザイン、社会情報学の研究に従事。



2. 「ICTを活用したまちづくりの事例研究」 塩津 ゆりか 氏（愛知大学経済学部）

都市近郊の公共交通空白地帯で、従来型のアンケート調査から得た知見でICTを活用した住民主体のコミュニティバス運営に必要なシステムを提案します。

愛知大学経済学部 准教授。同志社大学ライフリスク研究センター 特別研究員、同志社大学経済学部 助教を経て、2013年より現職。2016年 総務省公営企業の経営のあり方に関する研究会委員。博士（経済学、同志社大学）。地域コミュニティの持続可能性と誘因構造の研究に従事。



3. 「ICTを活用したプラットフォームの構築と実証実験の概要」

木村 公哉 氏（同志社大学大学院理工学研究科）

関係性データの収集・編集・表現のために構築したプラットフォームを用いて行った実証実験の結果と今後の展開について紹介します。

同志社大学大学院理工学研究科 博士課程（後期課程）在籍。日本学術振興会特別研究員（DC1）。住民主体の地域活性化に向けたコミュニティ・デザインの研究に従事。



参加費無料

参加申込は <https://goo.gl/forms/1XYWOsSJLlusP1CD3> よりお願い致します。